

紀要原稿投稿規程

1 原稿用紙と書き方

【縦書き原稿の場合】

- (1) 原稿は、A4 用紙に縦書きで作成する。
- (2) 上下左右の余白は約 2.5cm とする。
- (3) 原則として、文字は 12 ポイント、原稿は 32 字×26 行×2 段組とする。
- (4) 本文及び表で用いる書体は、和文フォントでは MS 明朝、英文フォントでは Times New Roman あるいは Times とする。ギリシャ文字やキリル文字などの特殊文字は Times New Roman などの英文フォントを使用する。
- (5) タイトル文字はゴシック体とし、第一章、第一節、第一項という順に表記する。

【横書き原稿の場合】

- (1) 原稿は、A4 用紙に横書きで作成する。
- (2) 上下左右の余白は約 2.5cm とする。
- (3) 原則として、文字は 12 ポイント、行間はダブルスペース（12 ポイントフォントで 1 ページ 25-28 行）とする。図・表の挿入箇所などの指示は文書ファイル内で行ってはいけない。
- (4) 本文及び表で用いる書体は、和文フォントでは MS 明朝、英文フォントでは Times New Roman あるいは Times とする。ギリシャ文字やキリル文字などの特殊文字は Times New Roman などの英文フォントを使用する。
- (5) 原稿にはページ番号と第 1 ページ 1 行目から連続した行番号の両方を付ける。

2 文書と文体

【縦書き原稿、横書き原稿共通】

- (1) 和文は口語常体（だ・である）とし、現代かなづかいを用いる。固有名詞で読み誤るおそれのあるものには漢字にひらがなのルビを振るか、漢字の後に丸括弧で括ったふりがなをつける。
- (2) 固有名詞や学会で慣用の語句、資料の引用等を除き、常用漢字を使用する。

【縦書き原稿の場合】

- (1) 本文中で使用する数字は漢数字とし、単位語は、万・億・兆とする。
- (2) 年号、月日は和暦とするが、その後に括弧で西暦を示す。また、明治 5 年以降は西暦、その後に括弧で和暦を示す。
例：元禄十（一七〇二）年十月一二日 一八七二（明治五）年
- (3) 句読点は全角の「、」「。」を用いる。
- (4) 別表・指図等の数字は原則として横書きとし、算用数字を用いる。

【横書き原稿の場合】

- (1) 数字、アルファベット及び括弧などの記号は、原則として半角文字を用いる。
- (2) 年号、月日及びその他の数字には、原則としてアラビア数字を用いる。年号は原則として西暦とするが、和暦など他の年号を用いた場合は、その後に括弧で西暦を示すこと。
例：元禄 10 (1702) 年 1872 (明治 5) 年

- (3) 人文系は、句読点は全角の「、」「。」を用いる。自然系は、句読点は全角の「,」「.」を用いる。
- (4) 学名の表記はイタリックとし、学名に対するイタリック (慣例: 1 本の線) などの指定は著者が行うものとする。

3 投稿原稿の内容及び種類

- (1) 学術研究 (原著論文)
オリジナルな研究論文で、内容の主要な部分が学術論文としてほかに印刷公表されていないもの
- (2) 短報
研究の予報、中間報告、内容が学術研究 (原著論文) まで至らない報告
- (3) 調査研究
実践報告等
- (4) 資料紹介
資料の正確な記載や紹介
- (5) 解説
研究論文、学説、研究法等を独自の立場から解説したもの
- (6) 雑録
上記の種類以外で、博物館活動の記録として重要なもの

4 論文の体裁

原稿の体裁は以下の(1)から(5)の順とする。ただし、(2)要旨は学術研究 (原著文) 以外において省略することができる。

- (1) 表題
原稿第 1 枚目
論文の種類、表題、著者名、和文所属・所在地、和文キーワード(3-5 語)を書く。必要に応じて、英文表題、英文著者名、英文所属・所在地を書くことができる。e-mail アドレスの記載を希望する場合には、責任著者 (corresponding author) の姓名とそのアドレスを英文所在地の後に示す。
- (2) 要旨
原稿第 2 枚目
必要に応じて英文及び和文の要旨を記すことができる。英文要旨 (Abstract) の場合、400 字以内の要旨の下に 3-5 語程度の英語のキーワードをつける。英文は著者の責任において正しい英文にして提出する。
和文要旨の場合、400 字以内で論文の内容を簡潔にまとめたものとする。
- (3) 本文
本文の順序は：本文、謝辞、引用文献、図の説明、図、表のとおりとする。
ただし、表と図については、たとえ図や表が小さくても複数の場合にはそれぞれを別の用紙に書く。
- (4) 謝辞
研究助成金等の記述については謝辞に述べる。
- (5) 文献

5 文献の表記

【人文系の原稿の場合】

- (1) 註は論文等本文の末尾にまとめてつけ、本文中への表記は「(1), (2)・・・」と関係個所の右下に小さく表記する。また、表記は下記の例にならって掲載すること。

① 書籍

【縦書き】大藤修『近世の村と生活文化』（吉川弘文館、二〇〇一年）

【横書き】竹中信常『日本人のタブー—もう一つの日本文化の構造—』
講談社 1971

② 書籍の一部，雑誌に掲載されている論文

【縦書き】藪田貫「話し言葉と古文書」（『女性誌としての近世』校倉書房、一九九六年）

【横書き】柳田国男「忌と物忌みの話」1933（『定本柳田国男集』27 筑摩書房 1962）

- (2) 文中に引用する書名は『 』で示し、史料の引用は「 」で括るか、本文より二字下げとする。

【自然系の原稿の場合】

- (1) 本文中で連記する場合は、まず年代順、次に著者名のアルファベット順とする。また、3名以上のものについては「－ほか」または「－et al.」とする。
- (2) 本文ならびに図表中において引用した文献は本文末に一括し、著者名がアルファベット順となるように配列する。著者が何人いても略さずにすべて書くこと。
- (3) 雑誌名は和文誌・欧文誌とも略さずに全部書く。同一著者による論文は年号の古い順とし、同年の論文については年号の後に小文字のアルファベット(a,b,...)をつけて区別するものとする。巻・号の表記は6(4)のように書く。
- (4) 文献は本文及び図表中に引用されたものに限り、かつ引用されたものすべてを掲載しなければならない。
- (5) 文献は下記の例にならって掲載すること。

① 和文書籍

岡田篤正・東郷正美（編）. 2000. 近畿の活断層. 395pp. 東京大学出版会, 東京.

清水大吉郎. 1996. 古典にみる地学の歴史. 174pp. 東海大学出版会, 秦野.

② 和文書籍の一部

山下善平. 1999. 冬を越す. 里山の昆虫たち その生活と環境. pp. 119-132. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

中井秀樹. 2003. アブラナ科. In: 清水健美（編）. 日本の帰化植物. pp. 80-96. 平凡社, 東京.

③ 雑誌に掲載されている和文論文

尾崎正紀・松浦浩久・佐藤喜男. 1996. 神戸層群の地質時代. 地質学雑誌, 102:73-83.

④ 英文書籍

Higo, S., Callomon, P. and Goto, Y. 1999. Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-Bearing Mollusca of Japan. 749pp. Elle Scientific Publications, Yao.

⑤ 英文書籍の一部

Waller, T. R. 1998. Origin of the Molluscan Class Bivalvia and a Phylogeny of Major Groups. In : Johnston, P. A. and Haggart, J. W. (eds.). Bivalves : An Eon of Evolution. Paleobiological Studies Honoring Norman D. Newell. Univ. pp. 1-45. University of Calgary Press, Calgary

⑥ 雑誌に掲載されている英文論文

Matsumoto, T., Morozumi, Y., Bando, Y. Hashimoto, H. and Matsuoka, A. 1981 . Note on *Pravitoceras sigmoidale* Yabe (Cretaceous heteromorph ammonite). Transactions and Proceedings of the Paleontological Society of Japan. New Series, 123 : 167-178, pls. 22-26

6 ホームページ等について

Web 上で公開されているホームページなどの参照・紹介については、ホームページアドレスおよび最終確認日を文献欄に掲載するものとする。

なお、参照・紹介は、受理の段階でアクセスできるホームページに限る。

7 図表

(1) 図表は本文中に入れずにそれぞれ別用紙に書く。

(2) 図表はその下に通し番号をつける。図表の説明文（キャプション）は図表ごとに別紙にまとめ、本文の後に付ける。説明は和文または英文で記述すること。両者を併記することもできるが、いずれかのみを使用する場合は、一報文中では統一をとること。また、図表中の使用言語は著者の判断にゆだねられる。ただし、この場合も一報文中では統一すること。

(3) 原図の大きさは原則として A4 版までとする。

(4) 写真、図版等の掲載に関する許諾は、電子化及び複製し、公衆送信することを含め、投稿者がとること。

8 投稿について

投稿者は A4 版の原稿を 2 部作成して投稿する（コピーでよい）。その際、原図・表は手元に保管し、コピー（鮮明なものに限る）のみ原稿に添付する。原図・表は原稿が受理された後に送付すること。

電子投稿にあたって、文章については原則として Microsoft Office Word 等、図に関しては JPEG ファイル、TIFF ファイル、もしくは PDF ファイルを DVD などに保存して送付すること。

すべてのファイルの合計が 5MB 以下の場合は電子メールの添付ファイルとして送付する。原稿は返却しない。